

山とスキー



第二十五號

札幌山とスキーの會發行

次目號五十二第

記 事

雪崩とその危険に就いて

加納 一 郎 (二〇一)

ロープの結び方

岡村、源太郎 (二二一)

雪草紙

ボースケニール (二二五)

圖 版

シヤンツエを離られる利那

須 藤 勇

"Oronching soum"

稻 積 猶



く な み 極 快 壯 其 は て み 試
し 深 趣 興 其 に 更 は て し 達 技

！ 一 キ ス よ れ ら み 試

□ □ □ □ □ □ □

通 大 町 穂 稻 市 樽 小

店 具 動 運 屋 梅

【 呈 進 グ ロ タ カ 】

番 〇 七 樽 小 替 振 番 六 八 九 話 電

マリヤは世界的名聲ある國**ミツチ**會社發賣になる下記

のスキー及登山具を輸入しつゝあり。

雨 外 套	登山用折疊式提灯
登 山 服	雪 眼 鏡
ス ウ エ ッ タ ー	呼 子 笛
リ ュ ッ ク サ ッ ク	各 種 ス キ ー
登 山 用 ロ ー プ	止金Harsteisen
ア イ ス ア ッ ク ス	複 杖
カ ン ジ キ	ス キ ー 修 繕 具
登 山 靴	ス キ ー 油
其 他 附 屬 品 一 式	

この外**マリヤ**特製の**リュックサック**。登山靴はその色彩形状總ての點に於て輸入品に遜色なきを確信す。

大阪**マリヤ**

大坂市北區堂島北町

東京**マリヤ**

東京市京橋區第一相互館下

博多**マリヤ**

博多市片土居町

雪崩とその危険に就いて

加納 一郎

一、緒言

アルプスに最初のスキーアクシデントがあつた一八九七年から一九一九年までの二三年間にスキーのアクシデントの爲に永劫なるアルプスの雪に命を献けたものは一二一名に達する。而してその多くが何によりて起れるかは次の表を一見するに及んで明かに知り得るであらう。

雪崩	八八人	七三%
暴風及び曝露	二〇	一七
クレバス墜落	一三	一〇

年平均三・八人の人が雪崩の爲に死んでゐることゝなるのであるが一九一二年の如きは一人一九一四年は一〇人と數へられる。勿論此等の統計はエーデルワイス採集者や其他の労働者及びアルプス兵團の兵員等を含んではゐない

のである。

單に數に於てのみならず雪崩の危険が如何に恐るべきであるかは次の實例によつて首肯し得らるゝことと思ふ。即ち一九一二年五月二五日シユネーエブゲルに於て一人一人なるスキーの一隊が雪崩に遭ひ、そのうち一〇人が絶命した如き、或はまた一九一八年一月二日ユングフラウよりローンの谷へ降らんとして雪崩にさらへられ急斜面を谷へ一〇〇〇米墜落死亡したるが如きである。

上に引證した事柄は全て歐洲アルプスに關するものである。而したまへ本邦には氷河は存在せずとも雪崩は決して稀ではない。上記統計中雪崩の項に於て、氷河旅行よりの歸途に遭遇せるもの一〇を減じても尙六五パーセントの高率となるのである。更にまた右八八名中七四名は中山地に於てせるものであつて、高連山地に於ては僅に一四名にす

ぎない。既に先年奥羽地方にて二人の中學生がスキーに際し雪崩に遭ひ死亡せるが如き手近の實例が示されてゐる。スキー登山や冬季登山をするものにとつて此の危険を歐洲アルプスのそれと同等に評價するも決して不當ではない。

フリッツ・ルートゲルス氏は此等不幸の大多數は偶然に發生せるものではなく、各豫め知り得べき事情、例へば積雪の状態、性質等に歸せらるべきものでありし、又その被害は適當なる處置によつて減ぜらるべきものであると云つて居る。またアーノルド・ラン氏は皮肉にも、近頃のスキー家はテレマークやクリスチャニヤに熟達することに腐心し滑走雪面には少しの注意をも拂はないと記し更に、スノークラフトに熟達せんが爲めに苦心せざるものは完全なるスキーランナーに非ずして、むしろ時代遅れの杖乗滑走者にも劣るものであると嘲つてゐる。

さて此處に私は雪崩に就て書かうとするのであるが、此に關する自分の經驗は極めて貧しいものであり従つて記述の多くは文獻によつたものである。或は粗漏錯誤なきを保し難い。一重に諸兄の是正を俟つ次第である。涉獵せる書物は參考の爲文末に列舉して置いた。

二、雪の性質

一度之に捲き込まれるれば幾多の生命、瞬時にして失はるる雪崩、之を遠く彼方の谷に眺めては大音響を發しつゝ、

樹木を屈倒しその雪片は高く天空に飛散して雲の如きスタウプライイーネ。その雪崩を形成する所の雪そのものの性質を知る事は雪崩につき考察せんとするもの、第一に必要な事柄である。

雪の性質、特にその物理的性質のうち知らねばならん主な事項は次の様なものであらう。

比重、摩擦、内部摩擦、器械的剛性、濕潤性、温度。
雪の比重と云ふのは一定容積の重さで一立方センチメートルの重さをグラム數で表したものである。勿論此は雪の種類によつて異なるものであつて大體は次の通りである

雪の種類

比 重

一立方米の重さ
キログラム

乾燥せる粉狀雪

〇〇六—〇〇八 六〇—八〇

定着せる雪

〇二—〇三 二〇〇—三〇〇

濕潤なる雪

〇〇八 八〇〇

此はエフ・ルートゲルス氏によつたものであるが、比重〇〇六—〇〇八位の雪は降りたての粉狀雪で非常に粗鬆で軽く吹きとばされ易い。此う云ふ雪は多くスタウプライイーネを起すものである。積雪後時間を経過し漸次落ちつくと共に比重は増し、〇五—〇六にも達するものである。また一方濕潤となつた雪は〇〇八位の比重となり此は多く春のグルンドラヴィイーネに見る所であるが一立方米八〇〇キログラムの重量を持つてゐることに注意せねばならぬ。

又此は同じ場所、同じ時間に於ても、雪層の上部と下部とで異なるものであつて岡田武松氏が一九〇四年二月札幌に於て測定せられたのを見ると次の様である。

雪の深さ(尺に於て) 五 二五 三四 四

その比重 〇・二三 〇・二五 〇・二九 〇・三五
(尚ついでに記して置けば、氷河の水は〇・八九—〇・九一
純粹の水は〇・九二、水は云ふまでもなく一・〇)

一般にスキー家又は登山家が最も簡便に雪の比重を知るには最寄の測候所に就て、一日の降水量(降水量を水柱の高さで表はしたもの)と新降雪量とを知り之を同じ單位に換算し後者を以て前者を除せば得られる。例へば新積雪量が五二c. m.で降水量が八〇m.とせばその比重は

$$80/520 = 0.154$$

となる。而し降雨があつた場合には此の方法は成り立たない。また時日を経過したものには就てはあてはまらない。たと前日又は前々日の新雪に就てのみ知り得るだけであるが而しスキー家にとつては此の表層雪の性質を知ることが最も重要なことである。

雪崩成立に關し次に必要な物理的性質は摩擦である。之は内部摩擦と外部に對する摩擦とに別けて考へることが出来る。外部に對する摩擦は雪面相互間に於けるものと、雪層と地表との間に於けるものである。内部摩擦と云ふのは雪層内の各雪片相互間に於けるものを云ふのである。

雪が斜面上に、重力に抗して靜止して居るのは元來、次の三つの要素によつてゐるのである。即ちその第一は雪層全体としての地表に對する摩擦であつて、此は斜面の傾斜度、地況、雪の比重に關するものであつて、傾斜及び比重が大きくなる程重力が大となるから滑り易く、地表に凹凸がなく、又は草地や一様な岩石地でも雪崩を起し易い。第二には積雪の上層と下層との間の摩擦である。一般に積雪は降雪の繼續によつて層々作るのであつて、此はスキーの杖などを雪の中に差し込んで見るとその色や堅さから明かに知ることが出来るものである。二つの層の間の摩擦が少い例へば前に降つた雪が凍結してゐる上に、新しい低温の粉雪が積る。此の新雪は非常に滑り易いものとなる。第三の最も重要な要素は内部摩擦である。〇・〇六—〇・一〇位の小さな比重のものは内部摩擦は非常に小さく従つて流動性が大きい。乾いた雪で〇・二以上の比重であれば内部摩擦は増して来る。濕潤性が大きくなる。比重が大きくなるばかりでなく、水は滑劑の作用をなすから、再び内部摩擦は小くなる。そのみならず水はまた雪層と地表との滑劑としても働く。大きな雪崩が主として春に起るのは、雪が融けだして水分が多量に生ずる爲であることは云ふまでもない。

器械的剛性は比重が小さいときには小であるが比重が増すと共に大きくなり、濕潤性が増さない限り之に伴ふ。濕

潤となつて來ると再び減小することは春の融けた雪に於て見るこゝが出来る。

次に濕潤性に就て見るに既に降雪時からして異つて居り高い氣温の時に降るものは濕潤である。水分の含有多き程比重は大となること前述の如し。或る範圍内で、スキーに附着することも多い。而し或る限界を超えたと此の附着性はなくなる。

乾いた粉狀雪は斜面を滑落する時にその速度大きく、急斜面では空中に飛昇する。之に反し濕つた雪は速力遅く、初めは滑り、後には轉々ミして下る。水分をあまり多く含むと更にと速く滑落する。

積雪の温度は一日中に於て整然たる變化をする。それはまた深さに依つて異なるものである。阿部幸次氏が一九〇七年二月札幌に於て測定したる所を見ると次の様である。

深さ(種)最高	起時	最低	起時	較差
0	— 0.27 p.m.	1. — 12.37 a.m.	4	12.10
5	— 1.34 p.m.	3. — 9.65 a.m.	8	8.31
10	— 2.05 p.m.	4. — 7.16 a.m.	9	5.11
20	— 2.05 p.m.	8. — 3.36 a.m.	1	1.31
30	— 1.75 p.m.	11. — 2.07 a.m.	3	0.32

此によつて見ると積雪の表面近くの温度は午後一時から三時頃の間にも最も高いこゝを知る。此は一般スキー家の記憶すべきことである。

以上述べた外、雪は一般氣象上の要素、氣温、空氣湿度、風向、風力、日射、地熱の輻射等に影響せられて種々の相を呈し、又地形によつて著しい變化を生ずる。此等各種の相を呈する雪を、分類せんと試みた人は今日迄多數あるが未だ一定した用語は決まつてはゐない。此は吾々にとつて非常に不便な事であると思ふ。少くも我國だけでも、各地のスキー家の協定による用語を作りたものである。

三、雪崩の分類

雪崩(英、佛 avalanche, 獨 Lawinen, Laiminen, 伊 avolanga, 日、なだれ、なで、あわ)とは山腹に積つた雪が多量に滑り下ちて、谷や麓に落ちるのを總稱して云ふのである。

此は發生の原因や状態によつて種々に分類されてゐる。その最も著名なものは次の二つである。

乾雪雪崩。(Dry-snow avalanche, Staub-lawinen, avalanche des de postiere)

濕雪雪崩。(Wet-snow avalanche, Grund-lawinen, avalanche des de fond)

尙此の他に氷河雪崩、表層雪崩等がある。乾雪雪崩と云ふのは塵雪崩とも云はれてゐるものでそれは低温度で軽い粉狀雪が、急な斜面の古い積雪上に一時に多量に積つたとき、その新しい層は非常に動き易く、風や其他些細の原因例へば、鳥が樹の枝の雪を落したりなきする爲に發生する

もので、極めて速く滑り落ち急な斜面では雪片が空中に飛散して雲の様になる。之は寒い時に却つて多い。

濕雪雪崩はまた底雪崩とも云はれ、それは、濕つた雪層がその重さに耐えられず全部、滑り出す。雪は塊状となり終には滑るよりも轉々落下すると云ふ状態を呈する。此は多く融雪期に起るものである。

表層雪崩と云ふのは、幾つもの層をなして積つて居る雪が層と層との間の摩擦が減少するとき上の層が滑り出すのであつて、雪は板状を呈する。比較的低温のときに起るものである。

尙此の外山岳中でよく見る現象がある。それは何かの原因（スキーで歩く爲等）で小さな雪塊が轉がり出して下へ行く程、頂度雪達磨を轉がす様に漸次その雪塊が多きくなつて行く、そして雪の凝集力が大きいときは此が非常に大きくなり（直徑八〇種巾二〇種位の圓板となることがある）終に雪崩を起すことがある。若しその凝集力が小さいと或る大きさまで達するとその塊は割れてしまふしまた或る場合には逆に下へ行く程小さくなつて唯雪の表面に小さな點々とした美しい跡を残して消えて行つてしまふこともある。

四、雪崩の形成

次に雪崩は如何にして形成せらるるかと云ふ事に就て考へなければならぬ。一般に雪崩の形成に關係する事項はル

トゲルス氏によれば次の通りである。

a. 客觀的即ち登山者に無關係な事情

一、積雪の厚さ

二、雪の性状

三、斜面の性質及び傾斜度

四、天候

b. 主觀的即ち登山者により影響せらるる事情

一、斜面の横斷により連續せる積雪を攪亂すること

二、スキーの電光形條痕

三、スキー滑走の停止、シユヅング

四、雪の硬き殻を踏み破ること

五、登山者各員の間隔小なる爲雪に過大の荷重を掛

くること

c. 地方的事情

此等の各項に就て見るに積雪が多い程危険なのは云ふまでもなく特に新雪の場合を注意せなければならぬ。雪の性状に就ては前記の物理的性質の如何を見なければならぬのであるが、現在ばかりでなく、降る時の温度は何程であつたか、風向は如何なりしか、又降雪後の日照状態等が關係する。低温に降つた新雪も二日位たてば落ちつくものであるが、若し引つゞき曇天であつたり霧がかゝつてゐるにそれが遅い。

斜面は急な程危険であるのは説明するまでもない。而し

事情によつては緩斜面でも起り得る。スタウブラヴィーネは二十四五度の際にも起る。高橋翠郊氏はその著書(「スキー家に」三〇五頁)に於て雪崩は全て四十五度以上の斜面に非らざれば起らざる様述べられたるもそれは大なる誤である。湿雪雪崩、乾雪雪崩共により緩なる斜面で起るを

私は見た。その上に全体がコンケーブな斜面はコンヴェックスなものより安全である。また各部が一様であるよりも凹凸があり、岩石なり灌木なりがある方が雪層を支へる爲に良きものである。斜面の方位によつても異なるもので、南及び西に向いてゐると日光の直射を受ける事が多い故、湿雪雪崩の形成さるゝこと他の斜面より早く、東及び北に向いてゐる所では之に反する。此の方位はまたその時節の風向にも關係を有するもので雪の積り方が風によつて支配せられ、或る所は雪が吹きとばされ風影の部分は非常に堆積して不自然な法を持つてゐることがある。降雪後の風下は危険である。

狭い谷、草地、滑かな岩石地帯は共に避くべきである。

次に天候との關係について見るに一般に嚴冬中に發生する雪崩はスタウブラヴィーネが多く、春の暖かい時には、グルンドラヴィーネが多い。雪崩と云ふものは單に融雪期にのみ起るものと考へるのは明にあやまりである。

低温度で降つた粉状雪が多く積つた場合には、其後晴天であれば此の雪は二日位で落付くけれども、若し尙雪が降

りつゞいてゐるか、曇天であつたり霧がかゝつてゐると、此はいつまでも不安定な状態をつゞけるものである。また吹雪の際には多量の雪が不自然に積るから危険である。それは高い雪庇(Windheuk)を作り、此が壊れるとその爲に雪崩を起すことがある。

暖かくなると雪は漸次表面から融け、融けた水はより下層の雪に浸み込んで終には地表に達し雪層と地表とを滑り易くするものでこれが多く底雪崩を起す原因となる。特に雨が降るとか、湿つぽい南風が吹く頃になると此の危険は著しい。雪崩はまた一日中に於てもその時間に關係を有するもので、此は氣温の日變化、日照等に影響せらるゝからである。多くは午前十時頃から午後二三時頃の間にも最も起り易い。而しながらその時の天候によつては夜間でも起り得る。

五、雪崩の廻避

雪崩を形成する自然の條件が存在するときには何等かの刺戟によつて直ちにそれはあらはれる。そして不注意な登山者は應々此の刺戟を與へる役割を演ずるものである。

此の危険と不幸とを避けんが爲には周到な觀察によつて雪崩が起り得るや否やを知らなければならぬ。

一、天候。先づ第一に知らなければならぬ事柄である。此はその前後に就てよく知つてゐなければならぬ。天候

の状況はその登山の可否に大なる關係を持つてゐるものであるから氣象報告、豫報に就て又は最密の測候所に聞き合せて知る事が大切である。霧のききには廣い範圍の地形を見渡せない爲、多く主觀的原因による雪崩を起し易い。

二、斜面。次にその斜面の状況に就て觀察しなければならぬ。既知の山地であれば此邊は岩石地だとか、こゝは草地だとか解るが未知の山は積雪期になるとよく解らないことがあるから注意しなければならぬ。また登山の前に調査し、毎年雪崩の發生する様な斜面を知つて置くことを要する。

三、積雪の状況。前に述べた様な雪の各性質や、地形や其他の條件との關係。雪の狀態を知るにはゾンデーレン（針にて探ると云ふ意味）するのがいい。それは杖を雪の中に突きさして圓錐形の穴をあけ雪の硬さや、濕潤度や深さ、雪層間の有様を見るのである。時にはしばしば之を繰返しつゝ進むことがある。此の方法によつて雪の狀態を試みることは大切なことであつて多くの經驗を積みねばならない。又、危険のない所で幾らかの雪を動かして見て、雪崩の傾向があるかないかをためして見ることも一法である。而し此は毒蛇となることがあるから若し雪崩れてもその運動が廣い區域にわたらない様な所で注意してやらねばならない。

雪崩の危険を迴避する爲に取るべき方法は次の事項であ

る。

一、間隔を十分に保つこゝ。三〇米以上、時に斜面が大きい場合は五〇米以上一〇〇米位とする。今迄の雪崩の遭難に於て、もし間隔をとつて居たならば雪は或はその荷重に堪え得られたか又はたこひ雪崩を起しても遭難者はより少かつたであらうにと云はるるものが少くない。

二、斜面は可成的上方を横斷すること。横斷の爲に發生した雪崩に埋められたる時は斜面の下方にある程埋めらるる雪の量の大なることは云ふまでもない。

三、狭い谷を行くこゝを避け、なるべく尾根を進むこと
四、前方の安全なる地域に達する爲に止むを得ない時は徒歩で眞直に上へ登る。此の時は足はしつかり踏みつけねばならない。

五、表面に被殻が出来て保たれてゐる様な場合には、その被殻（クルステ）を破らぬ様にすること。

六、ロープで連結するこゝは雪崩の際にはよくない。クレバスなどのあるところでは二人宛結び合ふ。

七、若しあまりに危険な地域を通過せなければならぬ時には二〇米位の赤色の繩を引きずる。此れは埋められた時に發見を容易にする爲である。

八、キツクターンを避けるこゝ。此の爲に三角に切られた部分は非常に動き易いものとなるから。方向變換は安全な地點例へば少し平になつた所まか岩塊、樹木のある所で

行ふ。

九、滑降の際にはスウイング跳躍廻轉をやらぬこと。

一〇、スキーの縮具を弛めて置いて、埋められた時に脱ぎ易い様にする。

六、遭難に際する處置

雪崩に襲はれた時には如何すればいゝか。

若し友が雪崩に奪ひ去られた時にはどうすればいゝか。

乾雪雪崩の起るやその初めは滑り出し、漸次多量の雪層が動くに到り速力を増して終にはその軽い雪片は空中に飛散する。その速さは他のいづれの雪崩よりも大である。

濕つた新雪が弱い傾斜を下るときには速力は遅く、雪は塊状の流れとなつて押し出す。その邊縁や底部は、中央や上面よりも速力が遅い。

如何に不注意な登山者も、それが如何なる種類の雪崩であるかは知り得らるるであらう。(底雪崩の起り得る時期—天候、或ひは場所の範圍は割合にせまい) 故に若し雪崩の流れに引入れられた際には全力を以て此に適當した努力をなすべきである。

一、他の滑落と同様に頭は常に上にある様にする。

二、流れの中では、泳ぐ運動をして、身体を右又は左へ廻轉させ雪崩から脱れることを試み、若し停止するまでに頭が雪の上に出なければ息が出来る様に工夫し、且手を高

くのばす。

三、スキーを脱する餘裕がなかつたら、その上に立つ様にする。スキーと共に埋められてしまふと之を脱ぐことが出来ず、従つて雪面から脱れ出ることが殆んど不可能となる。

四、ルツクサツクは直ちにはずすこと。

五、上から轉がつて来る雪塊を押し下げ、その上に立つてゐられる様にする。

六、乾雪雪崩は多くは後に雪片は大きく空中に飛散するから埋られることは稀である。而しその爲に氣壓に著しい變化を起しまた雪片が口や鼻から入つて窒息することがある。それ故に鼻から雪が入ることを防がねばならない。

七、濕つた雪のときは流れが遅いから避け得る餘裕がある。あきらめて雪崩に身を任せてはならない。一般に大きなもの程速力は速い。

八、濕雪雪崩は停るとその雪は非常に硬く凝集するから若し此に深く埋められたら、自ら脱れ出すことは殆んど不可能である。只救助を俟つばかりである。

九、遭難後にスキーを見棄ててはならない。新雪の際には特にスキーが必要なことは今更説くまでもない。

注意深き觀察にもごつき、適當な間隔を保つてゐれば決して全隊員が埋められることはない。若し他の隊員が雪崩にさらはれた時に取るべき處置は、



一、出来事をよく觀察し、彼が雪崩の流れの如何なる位置にあり如何なる経過をされるかを注意深く見つゞける。

二、流れが止つた際に此の位置を心に留め置き、先づその雪面上に何かの手がかり、例へば手足の先やスキーの端其他の旅装が出て居ないかを捜す。こう云ふ時に赤繩をつけて居れば非常に有利である。

三、若し何物も見出すことが出来なかつたならば、前に心に留めた位置をゾンデーレンして探す。埋められた者はその位置より多くは上方にある。何せなれば雪崩の底の方は上面よりも速力が遅いから。また中央は側縁よりも速力が大きいことも考に入れなければならぬ。

四、隊員は一列に並び杖でゾンデーレンする。此は常に秩序的に行はなければ不利である。

五、若し、此の方法によつて埋没者の位置を發見したら原則として先づ呼吸の出来る孔を作つてやることが第一の仕事である。

六、三十分又は一時間以内に、何等の手掛りを得られなかつたならば、シヨベル其他の器具を準備せる救援隊を求めなければならぬ。

七、探索は終日續けられなければならない。埋没者の生存時間は一概には云はれない。多くは二三時間で死ぬけれども、時には數日の後に救助せられて命をとりとめた場合もある。埋没者の周圍の雪は少しづつ体温の爲めにとける

最も早くとけるのは胸部で、四肢の部分は最もをそい。

八、遭難者は全く死んで居るか或は假死状態にあるか又は傷いてゐるこゝがある。假死状態にあるものに對しては人工呼吸を行ふことは云ふまでもない。外科的治療を要するもの、凍傷等に對して適當な處置をこゝること。

クロスステルに起つた雪崩に就て三名の死者の死因を見るに、一人は墜落の爲にまもなく癱痺し、他の一人は頭部に傷を負ひ、もう一人は脚を引きさかれ共に間もなくその爲に死んだ。

七、終りに

尙一二の實例を記すならば、一七四一年五月六日バーレンに於て多くの建物と一一の人名を喪つた所の雪崩はその原因を見るに、或る所では積雪量は一八〇センチメートルもあり夜になつて強い風が吹き出したのである。雪崩の起つたのは夜の一時から一二時迄の間であつた。此の日は他の所に於ても一〇時頃に同じ様な雪崩があり一人の母と六人の小兒がやられたのである。バーレンに於ては全ての死屍を掘り出して葬るのに一週間もかゝつた。一人の婦人は一〇時間も埋没せられてゐたが尙生きて助けられた。その婦人の叫び聲は外には聞えなかつたけれども、外の人々の聲は聞えたと言ふこゝである。

一九一〇年ベルグリヒュツテ附近の遭難を見るに、一四

日間の新雪が一五〇センチメートルも積つたときに長い行列がベルグリヒユツテに登るふししたのであつたが八人よりなる第一の隊が小屋に近づいたときに小屋の方から深雪に苦んでゐるのを助けるために一人がその隊の方へ下りて行つた。だから同時に九人が同じ斜面に仕事をすることに成り、雪は登りつゝある一隊によつて下の方から、そして助けに出た者によつて上の方から切斷されたので急に下の硬い雪層上を滑り出して七人の生命を奪ひ、次の隊の二人は重傷を受けた。此は多量の新雪の場合を示すものである。

一八七六年の二月にグラウビュンデン附近に起つたスタウブラヴィーネは稀に見る大きなものであつて、その爲に起された氣壓の變動は二・五キロメートルの所まで及んだ。また此の空氣の滑動の被害はガトメントールに於て五〇〇メートルはなれた向ふ側に起つた乾雪雪崩の爲に若い唐松の森の多くの倒木を生じた如きこともある。

多くのアクレシデトは、粗放に考へらるるが如く偶發的のものではない。それはただ偶然として運命の神の支配に任せることは出来ない。その原因を究めなければならぬ。そこに何かの理論的教示を得る。危険を無視することに誇つたり、暴虎馮河を以て得意とする様な事は、吾々の世界には大分かけはなれてゐる。

而しまた此の大きな自然の現象に、いたすらに恐れをな

すのは愚である。これは解りきつた事ではあるが吾々は、しらすしらすのうち、そのいづれかに陥つて居ないかをよく自省しなければならぬ。そして山の美に魅せられる前に悪魔の手を十分に警戒し安らかに山を友とし親しみたいものである。

引用書目

- British Ski Year Book. 1921.
Coaz, J.: Die Lawnen der Schweizeralpen.
遠藏吉三郎・木原均 最新スキー術
Hoek, H.: Der Schi
岡田武松 雨
Rogeb, F.: Skiruns in the High Alps
Rutgers, F.: Die Lawnengefahr. (Ratgeber fuer Bergsteiger)

寫版說明

北海道帝國大學スキー部スキー大會當日同スキー部新設なるジャンピングヒルに於ける青山馨氏のフライト及びアブローチなり。同ジャンピングヒルは札幌の北西一里の三角山々麓にあり、固定ジャンツエミして恐らく本邦唯一のものならん。

ロープの結び方

岡村源太郎 譯

ロープ使用は登山に於ける最も技術的な安全手段であつてその結び方は大抵一定して居て一般に必ず守るべき規準が示されてある。

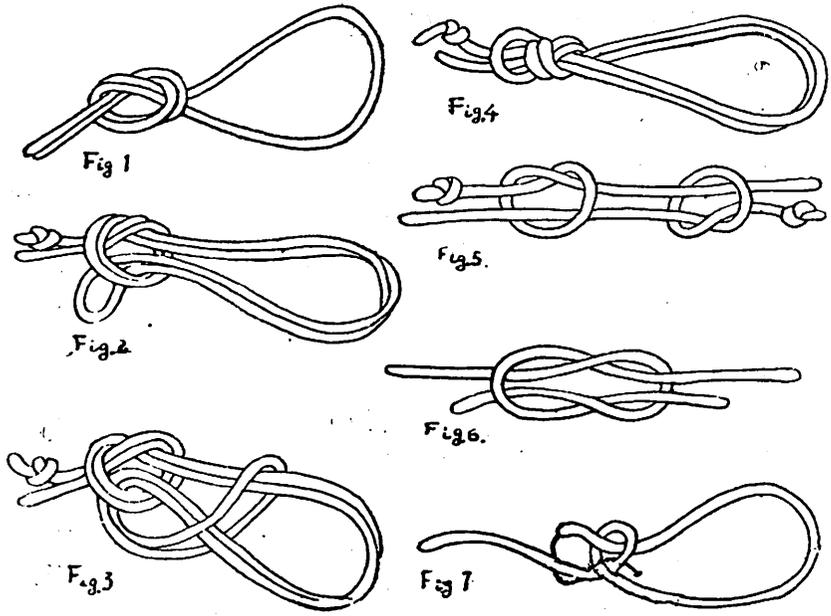
第一圖は一般のフユラーの結び方。之は体に固く接近して居なければならぬ。又如何なる場合も一時的のシヨックを受けた爲に結び目が猶一層引締まるといふやうなものは悪い。

第二圖より第四圖まで示されてあるのは結び環が二重になつて居てシヨックを受けた場合その体に及ぼす力が身体に適宜に分配せられるやうになつて居る。この結び方について注意すべきはロープがルツクの下になつて直接腋下に接するこゝとロープの間にはロープのたるむやうな余地を持たさぬこと及び二重の結び環の一つは肩に掛け他は胸を縛るやうにしロープが胸部から滑り落ちるのを防ぐや

うにすること等である。勿論ロープをルツクの上から掛けるのはいけないと思はれる。

之等の注意を怠つた爲にシユネーブリュツケから落ちる際ロープの結び方がゆるくてロープから抜け落ちシユバルテ中に墮落し或は負傷によつて或は救助するまでに寒氣に耐えきれずに命を失つたものがある。

ロープの結び目の間隔は各人相等しくあるべきであつて之が一般に正規の方法であるが時に困難なる岩石區域に於てはフユールは猶それ以上の間隔をロープに持たなければならぬ。又下降の際は最後の者は又他の者より多くのロープを使用し得るやうにする。氷壁又は氷の山背では余り距離を大きくならぬやうにして之に反して雪庇に蔽はれた山背では大でなければならぬ。罅裂ある氷河上を進む際にも亦その距離は狭くてはいけない。又岩石上を行く際に



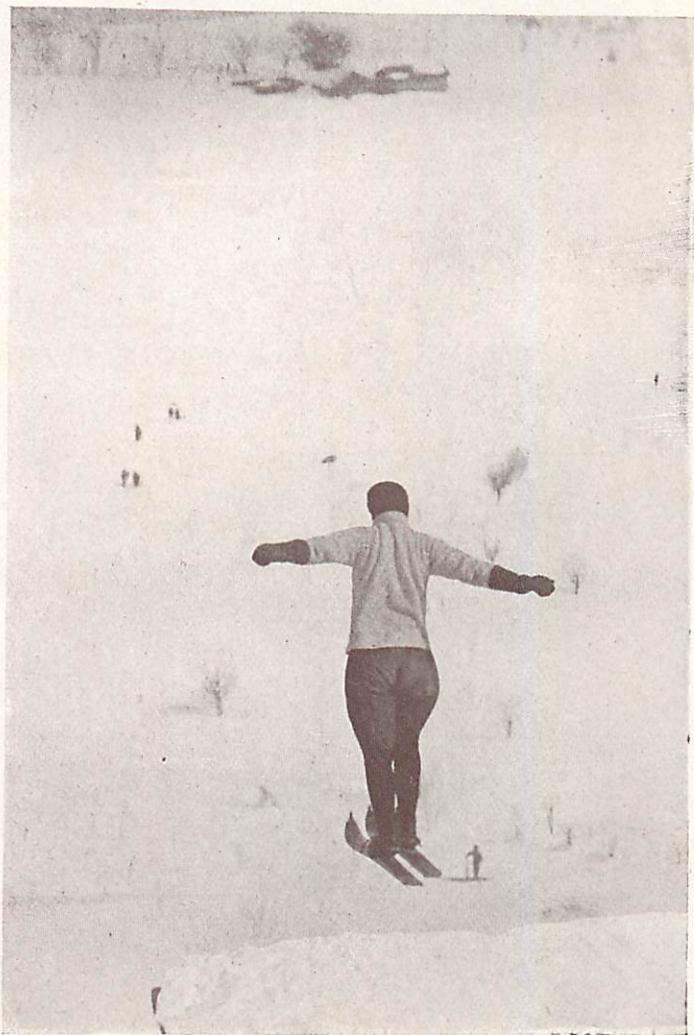
は一米乃至二米はロープを岩石に巻きつける爲に使用せられ
 ないと同様な状態を呈するものであるからロープに過剰
 を感ずるやうなことは少い。然し氷雪上ではロープを手に
 持つことが余り多過ぎるのは禁物で絶えずロープをぴんと
 させておくやうに注意すべきである。

ロープを必要以上に余り多く持った場合は實際必要だけ
 の長さに直して結ぶべきだ。過剰のロープを簡単に胸に斜
 に掛けて行くのはそれが爲にロープに絞められてしまふや
 うな危険を生ずる。使用しないロープはルツクの中に收め
 てしまはねばならぬ。過剰ロープの處置を誤つた爲に窒息
 或は負傷して命を失つた例は稀でない。

通常ロープは最後の者が携帯することになつて居る。之
 は先導者に何か變の起つた時にロープを使用し得るやうに
 する爲である。岩石登行の際には安全を二重に保証し又他の
 方法に使用する爲に先の者がロープを携行するのがよい。

その他のロープの結び方で必要なのに第五圖の如く二ツ
 のロープを結び合せ又ロープの環を作る方法がある。第六
 七圖は固い縮まりにくい結び方を示すものである。

(Ratgeber für Bergsteiger) 397—420



雪 草 紙 三

ボースケニール

◇去年の春の或る會話。

「おい体育協會にスキー部が出来たと云ふぢやないか」

「うんそうだよ。何でも例のあの堀内だの稲田なんか云ふ連中がやつてるらしいや」

「それで一体何をしようかと云ふんだろふ」

「何つてやつぱりスキーの事をやるんだろふ。國際オリムピックにスキーの競技が加はるか加はらないか協會してゐるんだつて。いづれにしても全日本撰手權を決定する競技會を開いて國際競技に出場する下準備をするんだと云ふよ」

「へー、それはまた大變な事だね。」

いやなかなか結構な事でございますなあ、だ」

「そしてね富士の麓に競技場を作るとか云ふぜ、まあ三四十米のレコードが樂に得られるシャンツエを作つて呉れりあいゝがなあ、そしてついでに雪が降つても止まらない鐵道でも作ればなあ」

「そりあ東京に近いところにいゝスキー場が出来れば申分はないが、どうせ金のない休協の事だ何が満足なのが出来るものか。それにゐくら体協だつてまさか暖かい處に粉雪を降らす事も出来まいて。今頃になつてスキーの宣傳だの普及だなんてよく云へたもんだ。競技會だつて祿なも

のが出来るものか」

◇所謂休協の全日本スキー撰手權大會は豫選決勝共に既に不目出度くすんでしまつた。案の定到る所で失敗を繰返してゐる。此のボースケニールも初めはそれ見ろと思つたもんだがあんまり支離滅裂お話にならないので少々氣の毒になつた位だ。

あの大會のときはわざわざ東京くん dariから、小樽までやつて來られた林會長代理、及び公務の甚だ繁忙にして寸刻の余暇もなくスキーの宣傳を口にしなからその實を挙げ得ざる且つ東京スキー俱樂部主催の關東豫撰會に漸くその前日競技場に到着して準備の不完全なるが爲に大失敗を

招いたところのその稻田昌植君——
ついでに云つて置く、小樽の決勝大
會には主催者たる体協からは此の二
入しか來なかつた——に對し深くそ
の心勞をねぎらひたいと思ふ。さり
まして此の日本スキー界の不祥事を妥
協温情で片付けてしまふには尙小生
は若すぎる。此處に於てかさいまか
カンカンとなつて此等の不都合を指
摘して体協の反省をうながし、且つ
一般スキー家の注意を喚起しよふと
思ふのであります。

◇澤山あるから手當り次第にすば
りすばりと片付けて行きませう。尙
此處で一才讀者諸兄に申し上げて置
きたいことは、小生は北海道豫選大
會の後援をした団体の所屬部員であ
り且つ此の關係からスラロームの審
判員であつたこと、決勝大會には個
人として体協から同じくスラローム
の審判員を囑托せられたが之を斷つ
たこと、及び此處に云ふ所の意見は
あくまで單なる一個のスキー家とし
てであつて所屬団体とは何の關係も

ないこと即ち、小生の意見から所屬
団体の意向を累推されることは絶對
に拒否するものであること、此の三
點を明瞭に御諒解ありたいのです。

◇スキージャムブに於ける固定シ
ヤンツエの必要なことについては今
更説くまでもないこととせう。小生
はこの事について小樽スキー俱樂部
(O.S.C.)に再三その要を説き決
勝をやるには必ず此を作らなければ
レコードに何の權威もないことを切
言した。そして俱樂部は之を作るこ
とを約したのであつた。勿論O.S.C.
は此に就て少からず努力した姿を
見せたのであつたが、今度の豫
選にも決勝にもうやむやと誤間化さ
れて之を見るに到らなかつた。O.S.C.
は今度のことに就ては競技の
權威なんか問題ではなかつた。全く
誠意なんかはちつとも持合せてゐな
い。だから今更云ふ必要もない。而
し体協は一体此の事に就て何と考へ
てゐるのか。これもむきになつて詰
問する方が野暮かも知れん。どうせ

体協なんかスキーには何の定見もな
いんだから。をそらく夢にも此の事
を思はなかつたらふ。体協の連中に
教へあけよふ、そしてあの大會を認
める人々に申し上げる、あの決勝の
さきのシヤンツエは今や日毎照りつ
ける陽光に一滴一滴ととけつゝある
そして練の厚群來が來て、金魚賣り
の聲が聞える様な頃になると何とか
病の第三期にもさも似たる醜い哀れ
な姿となり、やがてはかなくも消え
て行くであらふ。あの、優秀なるレ
コードも共に。

◇北海道の豫撰會が全く情實に支
配せられてゐたことは明瞭な事實で
ある。此はO.S.C.が主催で北大こ
小樽高商のスキー部が後援と云ふの
であつた。O.S.C.は前から此の大
會については北大側の技術上の權威
にたよる所が多かつた。さていよいよ
豫選會の役員を定める段になつて
スラローム、ジャムブ等全くスキー
特有の頭を以てしなければ出來ない
ものゝ審判員を撰ぶに北大と高商と

より各同數宛の役員を出さうとした
それで他のものは無事に之を定める
ことが出来たが、ジャムブのフォー
ムの審判員は定員が三名である。此
處に於て、はたご當惑したのは、
S.C.の理事長、黒崎君だ。之を四
人にしては如何と体協へ問會す程の
窮策を弄してゐる。元より北大と高
商のスキー部の大小を知る人は單に
頭數をそろへて無理にも兩者の均衡
を保たしめんとする心事の極めて愚
劣な事を難するであらふ。北大側は
必ずしもそんな事に頓着はしなかつ
た。而し飛型係を四人にすることは
絶対に反對したところである。係員
配置の情實を以て規定を變更すると
は以ての外だ。此は事實三人でやる
ことになつた。

◇情實の醜なるものもう一つ。豫
撰會四キロの競技で第一着者が杖の
一本を途中で棄てて來た。審判長黒
崎三市君は之に對して何等の考査を
も爲さず決定を與へ發表した。
此は長距離競走の規定第八條に抵觸

するものである。實に明瞭である。
此に對し後援者としての北大側の注
意に對し黒崎君は言を左右に托して
斷然たる處置を取らふとしなかつた
此は必ずしも當該競技者に對する情
實ではないであらふが、一見之を失
格せしむるの醜なる感に動かされ、
事なかれ主義に出でたものであるこ
と明かだ。之は後体協の判定により
失格となつた。當然の事である。此
の處稻田君大出來なり。

◇元よりあの体協の定めたスキー競
技規定が完全なものだ。は体協が自
ら斷る迄もなく知れきつた事だ。而
し一度定められ之によつて競技をや
ると云ふのだから文句がある。問題
はジャムブの採點法にあるであらふが
此は飛型式を採用したことは体協と
しては手柄である。勿論此の詳細は
追々改善せられるであらふ。がまあ
れでもスキーの上から見たら無理な
所はない。轉じて其他の競技に關す
るものを見るに實にあきれてしまふ
總則第六條の如きものは誰でももう

一度讀んで頂きたいものである。常
識のあるものは大抵その云はんさす
る所を解するであらふが嚴密に文意
を解せば甚だ滑稽なものである。競
走路兩側ヲ決勝柱ヲ連結シテ雪面上
ニ引ケル線ヲ以テ決勝線トス競技者
ハ其ノ線ニ垂直ニ交ル平面ヲ完全ニ
通過セザル可カラズ」一つの線に垂
直に交る平面とはどんなもんだか考
へて見るがよい。此れは「其ノ線ヲ
含ム鉛直ナル平面」と云ふつもりな
んだらふ。体協の諸君中學校の幾何
學教科書を引張りだしてお讀みなさ
い。然しこれはスキー競技ばかりで
はない。ランニングの方にもこんな
風なことが書いてあつた様に覺えて
ゐる。

◇元來があの規定はランニングの
規定からもつて來たものだ。小生は
發表前にあの規定の草案を一寸拜見
することが出来たが、草案には出發
違反の罰則にジャムブを除き皆何メ
ートルかの後退をさす様な條があつ
た。出發コースが降りか登りか解ら

ぬこと云ふまでもない。従つてこんな馬鹿なことあり得べきでない。体協は一体スキーでぎんなものだから知つてゐるのか。而し此の條だけはさすがの体協も決定の際削除したらしい一般に公表したものにはなかつた。當り前の事だ。競走中の接觸妨害の事についてもスキー競技はランニングと違い足に長いスキーと云ふもの、手にも多くは兩方に杖を持つてゐる。それにシュプールと云ふものがつくこゝを考へなければならぬ。それにコースも全く自由なところやひどく狭いところなどがある。これ等を考へたら義理にもランニングの奴をそのまま移すなんて出来た事ぢやない。

体協スキー部の連中の技術の巧拙なんか、かまわぬとしよふ。だがこんなのはスキーを穿いて考へたら誰でも解ることだ。君等が机の上ばかりで頭をひねくつてゐるから駄目だと云ふんだ。今度のこゝでこりこりして、如何に技術上に權威がないか

そして將來スキーの競技會をやつて行くにはもつて技術上の力を養はなければいかぬ事を自覺したら、雪のある地方に研究員でも置くことにしたらどうだ。由來協同の念に乏しい日本のスキー界を聯合統一するこゝは体協スキー部の重大な目的ぢやないか。それにあんな毎年決勝地を變へ地方點數の爭覇をやらすなど云ふのは何とした事だ。技術の進歩をはかろふと云ふのかも知れんがそれは各人が止むに止まれずやつて行く。技術の進歩をはからなければならぬのは体協自身だけだ。スキーは競技ばつかりではない一緒に滑ると云ふことがどんなに愉快な事であるふ。此點は勝負をしなければ成立たないスポーツと著しく違ふのである。だからだ。もつと融和と聯絡と云ふこゝに重きを置かねばいけないと云ふのである。

◇小樽で決勝をやるに就て体協は O・S・C・H・U・S・V (北大スキー部) とに依頼する所が多かつた。H

U・S・V でも出来るだけ助力すると云ふことであつた。而るに北海道豫撰會で此の兩者は大變意見の相違を來した。此のまゝ決勝大會をやつたらまたきつて問題が起るにきまつてゐる。それで H・U・S・V は大會には手を引いたと云ふ有様だつた。何にも知らずやつぱり前日にやつて來た体協が驚いたのを無理はない而しあのまゝ H・U・S・V が一緒にやつて居たら、更に紛糾したことであろふ。

◇北海道豫選の際スラロームの審判員であつた讃岐梅二君等は、豫選會終了後あの時のスラロームの審判に不服があるとて O・S・C へ抗議をした。審判員自らがあの審判は不公平であつたと云ふのだ。それは H・U・S・V の入選競技者を失格せしめる目的であつた。小生もその審判員の一人であつたが彼等の云ふことは技術上問題ではなかつた、つゞいて決勝にも小生が同じ審判員を囑せられたけれど萬事がこうした案配式に

やられてはいくら眞面目にやつたつて到底審判の公平も保たれず、その權威も認められないにきまつてゐる主催は体協であつても瓢箪餘のO・S・Cが實際をやつてゐるのだ、その情實によれる點と、審判員の權限を無視する點で小生はこりこりしたその他の理由もあるがお氣の毒乍ら審判員はお断りした。

◇黒崎三市君はO・S・C理事長で圓満なる妥協性に富んだ厚顔のスキ一家である。公務を持つてゐる人であるが、今度のことに就ては日夜東奔西走大いに努力せられた點に於て到底聲ばかり大きい稻田君なんかの比ではない。實に感謝すべきである。

◇スポーツマンシップと云ふことがよく云はれる。誠に結構な事である。だけどそれを圓満妥協の事なかられ主義と混同してもらひたくないものだ。何でもかんでも競技會が無事にすんだらいゝのか。そうしてスポーツはだんだん墮落して行つていゝのか。競技會が大切なのかスポー

トが大切なのか。
スキーと云ふウィンタースポーツの眞の核心を握め。

たとへ体協やO・S・Cの面目だまがまるつぶれになつてもスキーそのものを擁護したいと此のボースケニゲルは考へます。

◇日本の各地に出来た澤山のスキー俱樂部の統一連絡をとる一つの聯盟が必要だ。それは刻下の急務だ。体協がその仕事をするのは賛成である。此の點で小生は体協のスキー部を全く否定しよふとするのではない。今迄何度も何度も体協の悪口を云つて來たが、大日本体育協會云ふ看板だけで仕事をするのは無理である事を自覺してもらへばいゝのだ。そして体裁なんかまはず誠意をもつて努力してもらひたいものだ。体協スキー部は速かに改造されなければならんと此のボースケニゲルは考へます。



第二十四號所掲記事「ヒエツテの位置と設備に就て」は在米 H. Takeuchi 氏の通信(原文英文)であつて主にダートマウスカレットのアカティンクラブの小さな参考として書かれたものであります。私は單に之を拙譯したにすぎないのであります。校正の不注意の爲にあたかも私が書いたものゝ様になつて、筆者に對して誠に申譯がありません。あれは如上の通信であると云ふ點で初めて興味がある記事であると思ひます。皆さんの誤解をとくため又竹内兄にお詫びするたあ此處に訂正して置きます。私としては小舎に就ての考へは又別に書くときがあるだらふと思ひます。(加納一郎)

彙報抄録

高所に於ける

勞働能率に就て

海面上の標高を増すと共に氣温と氣壓とが遞減することは周知の事實である。その氣壓の減少が人間の筋肉勞働に如何程の影響を及ぼすかと云ふことは單に醫學上の問題であるのみならず、登山能率

の上にも大いに關係するものである。此の事に就ては未だ精密な研究の發表されるを見ないが、サクセンのオットー・ウオルフ氏が或る鐵道工事に際し多數労働者について研究した結果を見ると大体次の様な有様である。

一、海拔二八〇〇mまでは平地と略同様の能率を保ち得るがそれ以上になると急に減少し出す。

二、三六〇〇m迄ではその能率は平地の三分の一乃至四分の一を減少するに到る。

三、三六〇〇m以上になると僅かに平地の三分の一となる。即ち平地に於て一人の労働にて足る可きものにつき二人を要することとなる。此の研究の行はれた鐵道は四七六八mの高所に達するものであつて多くの際道其他の工事が行はれた。

勿論日本では此う云ふ高きは望んでも得られないことであるが、多少登山に際して参考となると思ふ。此の種の影響は長い期間の修練によつてアンバツセンすることの出來得るものである。大きな登山をするものは這般の關係を無視するこ

とは出來ないてあるふ。(加納一郎)

札幌中等學校

スキー驛傳競走

北大スキー部主催一九二三年札幌中等學校スキー驛傳競走は一月廿八日輕川、千尺高地大廻りを経て輕川に歸へる約八基五の距離を四區に分ちて行はる。天候快晴、雪質良好氣温氷點下四度、前三回の優勝校小椋商業二着となり小椋中學校優勝す、成績左の如し

決勝點到着順

所要時間

小椋中學	五四分一八秒
小椋商業	五五分三〇秒
北海中學	五七分一〇秒
北海商業	五九分六三秒
札幌師範	一時間二〇秒
札幌二中	一時間二九秒
小椋水産	一時間一分十八秒
札幌一中	一時間四分四二秒
札幌工業	一時間五分二六秒

第一區

レコードホルダー	飯田(椋中)	
第二區	第三區	第四區
野中(椋商)	秋野(椋中)	兒嶋(椋商)

全日本スキー選手權大會

各地豫選會

信越豫選

信越豫選會は一月廿月廿一日の兩日高田市外金谷に行はる。

一基米

一着	燕木(長岡中)
二着	小島(同)
三着	大谷(高田師)
四着	古川(高田中)
五着	霜島(關山俱)
六着	早津(眞峰俱)

四基米

一着	近藤(高田中)
二着	深澤(高田師)
三着	高橋(眞峰俱)
四着	永田(高田中)
五着	岩崎(飯山中)
六着	矢澤(高田中)

十基米

一着	田中(高田中)
二着	柿村(新潟高校)
三着	猪俣(高田)
四着	池田(高田中)
五着	小林(長岡俱)

六 着 吉 田 (高田商)
 八基リレー

一 着 (高田中)
 クリスチャニアスラローム

一 等 近 藤 (高田中)
 二 等 吉 越 (高田中)
 三 等 柿 村 (新潟高校)

四 等 笹 川 (關山俱)
 五 等 高 橋 (真峰俱)

六 等 木 下 (相 中)
 テレマーク スラローム

一 等 山 中 (高田中)
 二 等 深 澤 (高田師)

三 等 霜 島 (關山俱)
 四 等 蕪 木 (長岡中)

五 等 關 根 (高田農)
 六 等 永 田 (高田中)

ジャンプ
 一 等 松 木 (長岡俱)

二 等 金 子 (高田師)

三 等 相 澤 (高田中)

四 等 上 杉 (高田師)
 五 等 吉 田 (飯山中)
 六 等 佐 藤 (同)

東北豫選

東北豫選會は二月三日より大鰐魚温泉
 附近に行はる。

十基米
 一 着 岩 谷 (小學教)

二 着 五十嵐 (大湊要港部)

四基米
 一 着 鎌 田 (小學校)

クリスチャニア スラローム
 一 等 中 村 (青森中)
 テレマーク スラローム
 一 等 中 村 (青森中)

北海道豫選
 北海道豫選は二月三日、四日の兩日に
 行はる。

四基米
 一 着 津 崎 (樺 商)

二 着 福 田 (北 中)

三 着 紺 野 (北 商)

四 着 新 田 (步二八)

五 着 錦 戸 (高 商)
 六 着 飯 田 (樺 中)

十基米
 一 着 野 中 (樺 商)
 二 着 金 田 (同)
 三 着 芳 賀 (東俱知安)

四 着 高 野 (北 大)
 五 着 作 間 (樺 商)

六 着 川 村 (同)

一 基米
 一 着 上 野 (樺 中)

二 着 秋 野 (同)

三 着 藤 澤 (美 唄)

四 着 高 橋 (步二八)

五 着 淺 田 (美 唄)

六 着 岡 村 (北 大)

テレマークスラローム
 一 等 上 野 (樺 中)

二 等 南 波 (北 大)

三 等 小 海 (北 大)

四 等 青 山 (同)
 五 等 安 達 (同)
 六 等 伴 同 (同)

クリスチャニアスラローム
 一 等 船 津 (高 商)

二 等 阿 部 (高 商)
 三 等 稻 積 (北 大)
 四 等 岡 村 (同)
 五 等 青 木 (同)
 六 等 林 (道 廳)

全日本スキー選手権大會

大日本体育協會主催第一回全日本スキー選手権大會は二月十日十一日の兩日に渡り小樽緑丘に舉行さる

第一日は樺太、北海道各二五點の得點ありて技術殆んど伯仲の間にあるを思はしめたるが第二日目のリレーとジャンプに於て樺太は北海道に破れ九點の差を以て北海道優勝せり、朝香宮下賜のカップは北海道選手に又優勝旗は小樽商業學校選手の得る處となれり。

- 一基 米
- 一着 上野秀麿 (北海道樽中) 五分五九秒
- 二着 秋野武雄 (同) 六分九秒五分四
- 三着 藤澤彌一 (北海道美唄)
- 四着 野中久藏 (信越長岡商業)
- 五着 古川義一 (信越)
- 六着 中川新 (關東)

- 一着 秋葉廣治 (樺太) 二七分四秒五分二
- 二着 新田初三郎 (北海道歩二八) 二八分六秒五分四
- 三着 岩崎三郎 (信越飯山中)

- 四着 紺野真二郎 (北海道北商)
- 五着 三浦竹次郎 (東北)
- 六着 福田 (北海道北海中)
- 十基 米
- 一着 島本孫一 (樺太) 一時間三分四四秒
- 二着 草薙清一 (同) 一時間四分八秒五分一
- 三着 櫻庭留三郎 (同)
- 四着 野中十郎 (北海道樽商)
- 五着 芳賀藤左衛門 (北海道東俱知安)
- 六着 笹島馨 (樺太)

- テレマーク スラローム
- 一等 深澤謙五 (信越高田師) 三九秒五分三
- 二等 上野秀麿 (北海道樽中) 四一秒五分二
- 二等 草薙清一 (樺太)
- 四等 中川新 (關東早大) 四二秒

- クリスチヤニア スラローム
- 一等 船津阜二 (北海道樽高商) 卅七秒五分四
- 二等 吉田忠 (樺太) 四〇秒五分二
- 三等 櫻庭留三郎 (樺太) 四一秒五分六
- 四等 吉田忠 (樺太) 四二秒五分四
- リレー
- 一着 北海道(樽高商) 四九分五秒
- 二着 樺太 五一分一〇秒
- 三着 關東
- 四着 信越
- 五着 東北
- ジャンプ
- 一等 讀岐梅二 (北海道小樽高商) 一六米一(一、五五)系数
- 二等 渡邊盛 (北海道樽商) 一四米四(一、六〇)同
- 三等 島本彌一 (樺太) 一四米四(一、〇〇)同
- 四等 笹島馨 (樺太) 一四米二五(二、〇六)同 (系数は飛型系数との和)

各地方の得點左の如し

地方	一基米	四基米	十基米	テレーク	リレー	ジャンプ	合計
信越	1	2	0	5	1	0	11
關東	0	0	0	1	0	0	5
東北	0	0	0	0	4	0	0
北海道	10	4	1	2.5	10	8	40.5
北海	0	5	10	2.5	6	3	31.5

關東豫選中止

五色温泉附近にて舉行さるべき管の關東豫選會は選手側と主催者側との意見の衝突により遂に中止され東京スキー俱樂部は關東選手として早稻田。明治大學のスキー選手その他を推薦して小椋に派遣せり。

北大スキー部スキー大會

北大スキー部スキー大會は二月十八日午前十一時より琴似シルヴアースロープ附近に催さる、快晴、雪質不良、記録差の如し。

ジャンプ(系数を省く)

A 緒方 十九米 (参考レコード)

稻積 十八米

緒方 十七米四

廣田 同

村本 十五米七

B 一等 小林 一二米七

二等 阿部 一二米三

三等 宮澤 一一米七

三角山下降競走

一着 小川 四分二四秒五分四

二着 板板

三着 龍田

北海道山岳會成る

北海道廳首唱なる北海道山岳會は一月廿五日その發會式を舉げた。同山岳會は本年度の計劃として大雪山に石室小屋二個所、駒岳に一個所を建設し登山道路開鑿その他遊覽地の紹介、拓殖事業の紹介にも努むと、なほ北海道の各地に支部を設けその發會式も續々ととして舉げられつゝあり。

雪の日本アルプスへ

名古屋市の伊藤孝一氏は信濃大町より雪の針ノ木峠を経て黒部の溪谷を渡り更に大町に引返し中房口より燕常念をスキーにて縦走せんとする計劃を立て二月二十日大町を出發せり。一行は赤沼、百瀬氏の外人夫十數名にて冬の日本アルプスの活動寫眞を撮影せんとする目的なりと

誠意其物の様な営業振
りを御覽下さい
必ず御期待に添ひ得る
確信で御座います

營業種目

野球用具
庭球用具
フットボール
オリンピック用具
各運動服裝
登山用具
スキー及附屬品
體育器具製作

札幌市南一條西五丁目

小谷運動具店

電話一五八六番。振替口座小樽七九六四番

會 告

本紙第一號より第九號まで及び第十三號は既に久しく殘本皆無の状態に有之候が今般當會に於て定價又はそれ以上の價格にて御讓受致す可く候につき右御所持の方にして御不用の向有之候はゞ何卒御一報相煩はし度此段廣告仕候

定 價 金參拾錢

*前金御申込か、現金でなければお渡しいたしません。

*御送金はなるべく振替にてお願致します。

*六冊分前金拂込の方には送料を頂きません

*前金の切れた時には最後の分の包装にその旨記します。次の御送金あるまで配本を見合せます。

*本誌は營利的の刊行物ではありません。紹介、縁故の有無にかゝらず雑誌の代價は頂きます。

大正十二年三月十四日印刷
大正十二年三月十五日發行

(毎月一回十五日發行)

編輯印刷 兼發行者 加 納 一 郎

印刷所 札幌市北一條西二丁目 札幌印刷株式會社

發行所 札幌市北六條西七丁目 山ノスキの會

振替口座水櫃八四九五番

La Gazeto
de la
Monta kaj Skia Klubo

No. 25. Marto 1923. Sapporo, Japanujo.

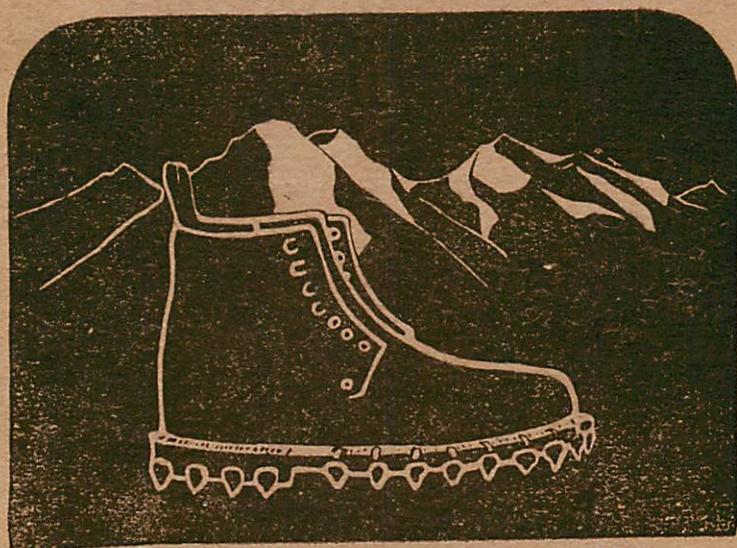
大正十二年六月七日第三種郵便物認可
大正十二年三月十四日印刷
大正十二年三月十五日發行

(每月五日發行)

山とスキー

第二十五號

定價金參拾錢



登山靴とスキー靴



東京市本郷區四丁目

太田屋靴店

電話小石川四七一

振替東京六一七